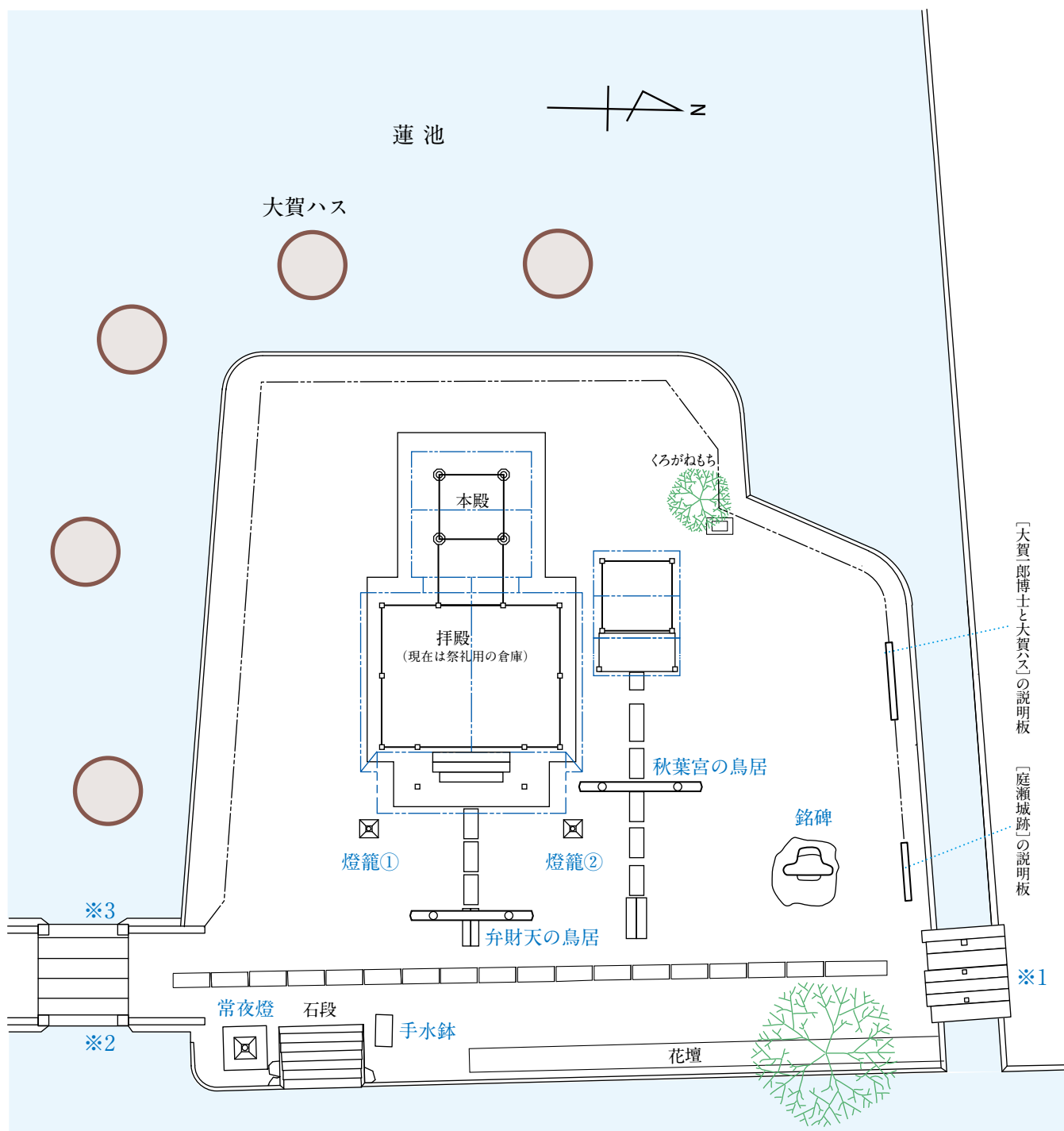


13 弁財天

弁財天、八幡宮、稲荷宮をお祀りしている社(庭瀬827)





※1～3の石材はかつての使用材の再利用品で溝やほぞ穴の跡がある。

これ等の碑文は三代藩主板倉勝興の在位中に建てられている。

祭 神: 南側は弁財天(学芸の神)、八幡宮(武勇の神)、稲荷神(農業の神)を合祀。
北側の祠は秋葉宮(防火の神)でその扁額の裏に天保7年(1836)の銘があった。
この島に弁財天が祀られており、「弁財天島」と呼ばれる。

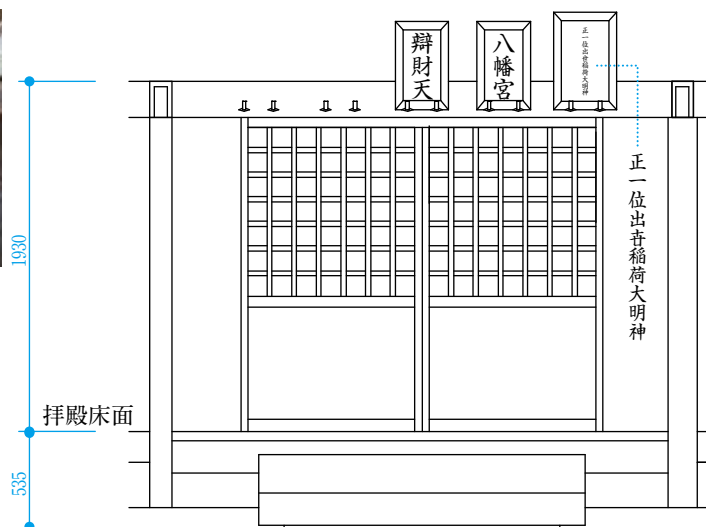
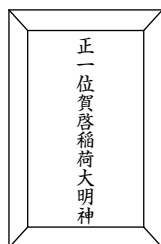
創 建: 寛文年間(1661～1672)の庭瀬城絵図に記載されており、板倉以前に創建である。
燈籠は享保20年奉納が最も古く、三代藩主板倉勝興になってからである。
束や柱は手の込んだ造り(八角形)で造作も江戸期の様式のものが残っている。
拝殿の入り口上部には3枚の額が掛けてある。

秋葉宮: 扁額には「天保七丙申歳五月」の銘があった。【天保7年(1863)、きびのさと】
社殿は桧皮葺で鞘堂が懸かっている。
軒瓦の紋は戸川(梅鉢)、板倉(左三つ巴)共にある。

拝殿の入り口にある扁額

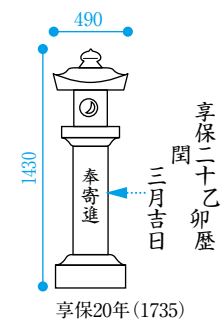


拝殿の中の扁額



拝殿の入口上部に3枚の額が掛けてある。(受金具のみ2枚分あり)

弁財天の石燈籠① 弁財天の鳥居



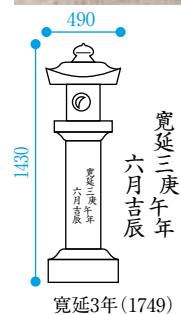
享保20年(1735)



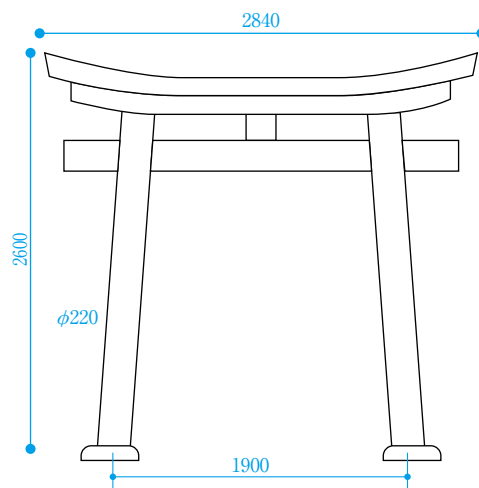
秋葉宮の鳥居 ※弁財天と秋葉宮の鳥居は同じ大きさ



弁財天の石燈籠②



寛延3年(1749)

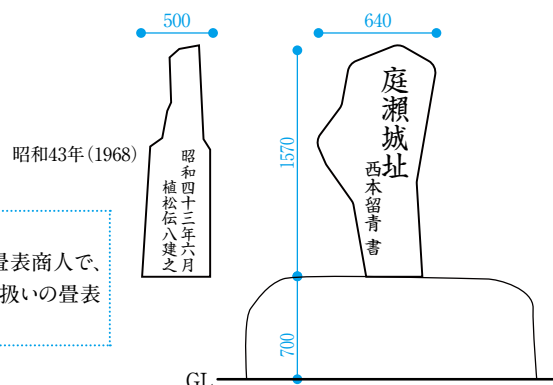




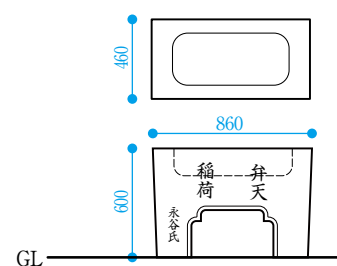
銘碑

西本留青について

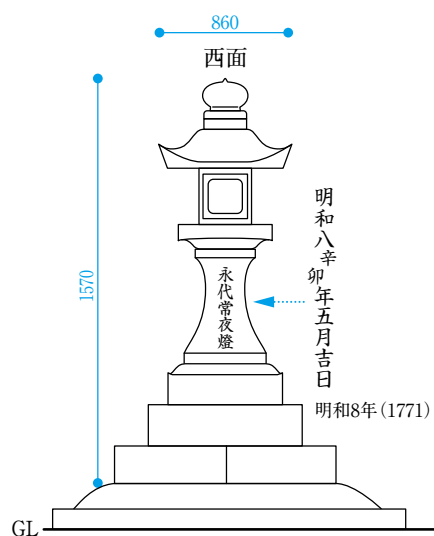
本名西本清人。安芸国広島から移住し、畳表商人で、光明寺を勧請した人。留青は雅号で、取り扱いの畳表が「青いまで留まって」という願望の現れ。



手水鉢



石段脇の常夜灯



廃藩後、庭瀬藩の旧家臣たちが主君の恩顧をしのいで寄進したもの。
(きびのさとNo.83より)

庭瀬城址の説明板

この説明板は現在の「撫川城」を本丸、この「庭瀬城」を二の丸とする本来の「庭瀬城」の説明板である。
芝場城は足守川右岸にあった城の名称。
(この城は永禄10年、宇喜多直家の重臣戸川平右衛門秀安により落城)

